

■地球教室, トークショー概要

◎8/19 (土)

子ども地球教室①地球は「水球」～「海」がある星へと進化した地球の履歴書

(講師; 竹村真一)

この星には、もともと「海」はなかった。やがて出来た海は生命を育んだが、同時に海も生命によって守られた。海から陸へと生命は進出したが、逆に陸から「海に還って進化した」クジラのような生物もいる。そして私たちも「歩く海」——太古の海水を細胞や血液、羊水にパッケージして生きる。海や陸があるのも、その両方に生命が息づいているのも、決して当たり前じゃない。その事を子ども達に伝えたい。「水球」へと進化した地球の歴史を辿りながら、この星の奇跡を「海」から再発見する。

◎8/20 (日)

NHK『ダーウィンが来た!』ディレクターが語る番組制作秘話①

ゲスト; 石垣竜ディレクター (NHK)

NHKの人気自然番組『ダーウィンが来た!』。生きものの姿を臨場感あふれる映像で描きながら、生物と環境の関わり、生態系の変化や気候変動の足音を伝えてくれる。たとえば「サケが生まれた川に還って死ぬ」ことはよく知られるが、それによって森を豊かにしている(海のミネラルを森に届けている)という報告もある。一方、最近サケが「深海に潜る」という新たな生態も判明。温暖化の影響で、海の表面が熱すぎるのか?——番組を制作された石垣ディレクターが、現場で見えてきた生きものと環境の異変を、映像を交えて縦横に語る。

◎8/21 (月)

子ども地球教室②西之島は富士山より高い?～海底火山とプレートテクトニクス

(講師; 竹村真一)

激しい噴火で拡大する西之島。でも私たちが見ているのは、海底火山の頂上(噴火口)に過ぎない。水深4000メートルの海底から聳える西之島は、もし海の水をなくして見たら、富士山に匹敵する大火山に見えるはずだ。そして、いずれは日本列島に衝突?——もともと伊豆半島だって、こうしてプレートに乗って南から運ばれてきた海底火山だ。世界遺産の佐渡金山、石見銀山も、もとは海底火山の恵み?日本列島を形づくる火山の「災い」と「恵み」について、あらためて考えてみたい。

◎8/22 (火)

トークショー サステナブルな魚の選び方・食べ方とは？

～シーフードのラベル (MSC/ASC) と、私たちのライフスタイル

(講師 山口真奈美氏)

世界でも大人気のお寿司が、十年後には食べられなくなる？—それほど国内外の海と魚は危うい状況。乱獲で魚が減っているうえに、プラごみ汚染や磯焼け、海洋酸性化といったリスクもある。

でも子どもの魚 (未成魚) を獲らないように網の目を大きくして、魚の産卵 (再生産) を促し、いのちの循環を回復することで資源量がV字回復した例もある。そんなサステナブル (持続可能) な漁業や養殖を、私たちの「魚の選び方、食べ方」で支えることもできる。では具体的にどうすれば？—海のエコラベルを日本で普及・推進する山口さんに、世界の動向の紹介も交えて語って頂きます。

◎8/23 (水)

NHK『ダーウィンが来た！』ディレクターが語る番組制作秘話②

ゲスト；岡部聡ディレクター (NHK)

美しいカリブ海は、プランクトンが少ないから透明で青くみえる。そんな「海の砂漠」のようなカリブ海に、なぜか小型のマグロやジンベエザメが何百匹も集まってくる。—その秘密はキューバ周辺の特殊な海底の地形や海流にあり、その背景にはもともと南北に分かれていたアメリカ大陸を結合するような大変な地殻変動があった！

生物の進化と地球の歴史をつなぐ、こんな面白い話を『ダーウィンが来た！』ジンベエザメ編にまとめた岡部ディレクターが、世界各地で体験してきたエピソード (アマゾン川に潜む1億年前の古代魚、ピンクのイルカ、サンゴの産卵と満月の関係・・) も交えて縦横に語る。

◎8/24 (木)

地球教室③クジラはカバから進化した？～生命と地球の共進化

(講師；竹村真一)

ペンギンはなぜ気温マイナス60℃にもなる南極大陸で生きることになったのか？背景には、亜熱帯のジャングルだった南極を「氷の大陸」に変え、南極海を巨大生物の宝庫にした大陸移動のドラマがあった。こうした地球の大変動に応じて「川のカバが海のクジラに」、また渡り鳥も「ヒマラヤの雪嶺を超えるツル」へと進化？—こうして別々に語られていた「生物の進化」と「地球の歴史」を合わせ鏡のように共創・共進化のプロセスとして語る時代が始まっている。プレートテクトニクスや地球規模の生物の動きをライブ的に描き出す地球儀 Sphere を駆使して、そんな新たな世界の見方を子ども達と共有してみたい。

◎8/27 (日)

調整中

◎8/28 (月)

地球教室④海の生物と地球環境問題～温暖化・プラごみ・酸性化

(講師；竹村真一)

あるデータによれば、温帯の動植物の生息域は 10 年ごとに平均 6km 両極方向に移動しているという。1 年で 600m、1 日あたり 1.7m——眼の前の森が毎日 1.7m＝「あなたの背丈分」北上していると思うとどうだろう？地球温暖化の影響は極地や高地ではもっと顕著で、北極圏では「平年より 20°C以上高温の日」が何週間も続く。氷を失った北極海は、偏西風の蛇行を通じて世界各地に異常気象を引き起こし、また世界で最もプランクトンが豊富な北極圏の海に（酸性化もあいまって）異変を起こしつつある。気候変動と海の変化を Sphere 地球儀で全球的視野で「見える化」する。

◎8/29 (火)

地球教室⑤21 世紀、人類は「海」に暮らす？～宇宙と並ぶ未知のフロンティア

(講師：竹村真一)

東京、大阪、上海、バンコク、NY、ロンドン・・・。Sphere 地球儀で見ると、温暖化や台風の大型化といった地球の変化とともに、高潮や海面上昇の影響を受けやすい沿岸低地にメガシティがどんどん増えてゆくのがわかる。スマホをタップして地球の裏側から何でも輸入できる時代、国際貿易の拡大は「港湾都市」の重要性を高め、海辺に人口が集中。便利な反面、海の異変と水害のリスクに人類はより脆弱になった。

ならば逆転の発想——「都市が沈む」なら「浮かんで暮らそう」と、オランダでは海に浮かぶ住宅やマンションが人気。日本でも洋上風車が魚のゆりかご（魚礁）にもなって、食料生産（水産業）とエネルギー自立、海的环境保全が一石三鳥で実現する例も出始めた。「宇宙」と並ぶ未知で未開のフロンティア「海」の可能性を、海洋国家・日本の未来も見据えて考えたい。